



# 2024年3月期 第3四半期 決算説明資料

2024年2月9日  
ジーエルサイエンス株式会社  
東証STD (7705)

# 目次

2024年3月期3Q

- ハイライト P.4
- 決算概要（2024年3月期 第3四半期）
  - ・ 全社 P.6
  - ・ セグメント別 P.8
  - ・ 施策と進捗状況 P.17
- 業績・配当予想等（2024年3月期） P.18
- 直近のトピックス P.22

# 全体戦略

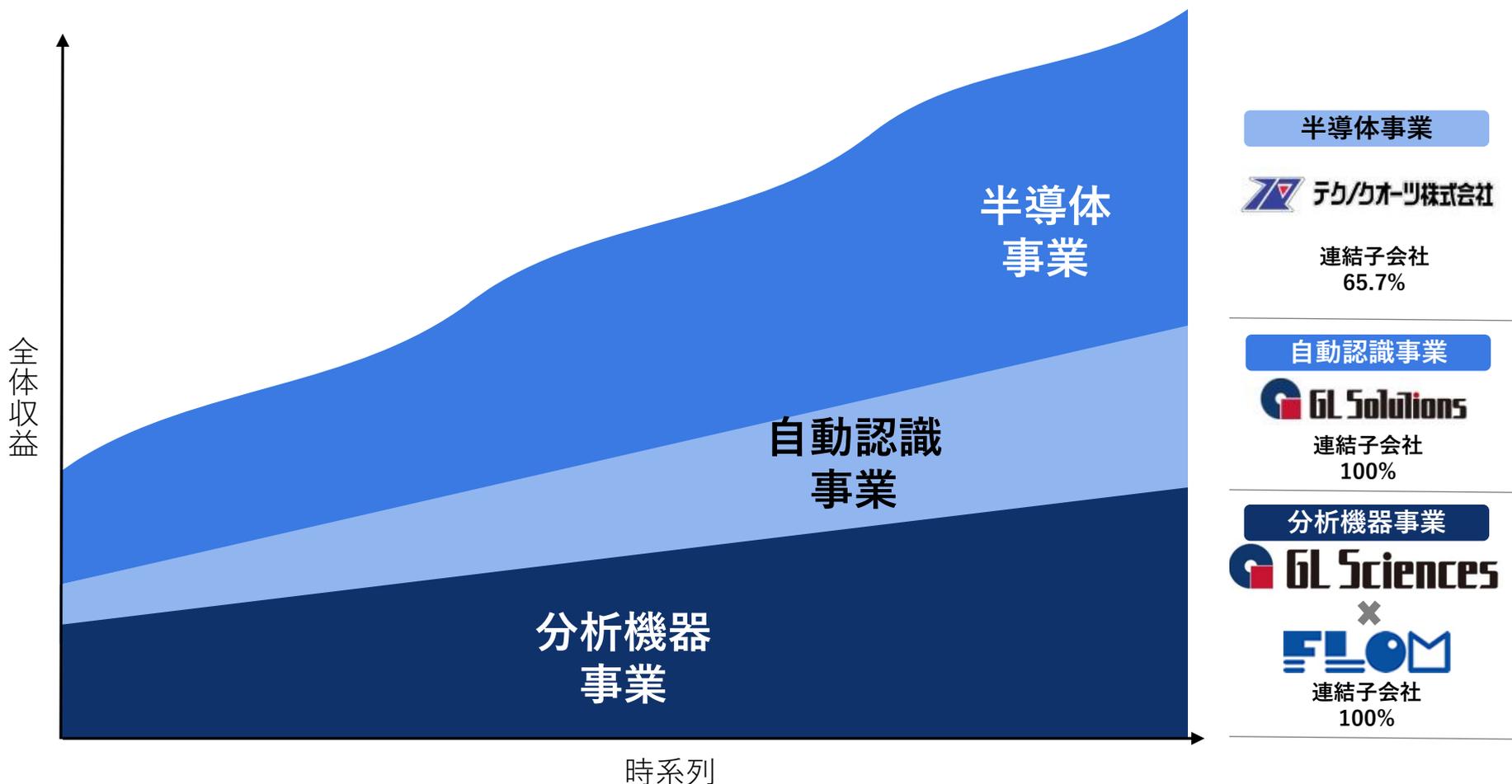
2024年3月期3Q

3つの事業で成長拡大を推進します。

分析機器事業 (安定成長事業)

半導体事業 (高成長事業)

自動認識事業 (新規事業)



# ハイライト

2024年3月期3Q

1

## 【全社】減収・減益

売上高：	26,314百万円	▲4.9%	▲1,361百万円	(前3Q：27,676百万円)
営業利益：	4,031百万円	▲7.0%	▲305百万円	(前3Q：4,337百万円)

2

## 【分析機器事業】増収・増益

売上高：	12,560百万円	+8.3%	+960百万円	(前3Q：11,600百万円)
営業利益：	1,311百万円	+16.4%	+185百万円	(前3Q：1,126百万円)

(要因) 【増収】消耗品(多分野) + 【増収】装置 + 【好調】海外

3

## 【半導体事業】減収・減益

売上高：	12,514百万円	▲16.8%	▲2,524百万円	(前3Q：15,038百万円)
営業利益：	2,654百万円	▲16.5%	▲525百万円	(前3Q：3,180百万円)

(要因) 【需要低下】PC・スマートフォン向け半導体  
【受注残】高水準を維持

4

## 【自動認識事業】増収・増益

売上高：	1,240百万円	+19.5%	+202百万円	(前3Q：1,037百万円)
営業利益：	65百万円	+180.7%	+42百万円	(前3Q：23百万円)

(要因) 【好調】医療(バイタルチェック)向け製品  
全てのサブセグメントで増収増益

# 決算概要 (2024年3月期 第3四半期) (全社)

# 決算概要 (全社)

2024年3月期3Q

## 減収・減益

分析機器・自動認識は増収増益も、半導体が需要低調

【分析機器事業】 **増収増益**：多くの分野で増収、特注システム製品、海外売上も好調

【半導体事業】 **減収減益**：メモリーを中心に在庫が滞留  
半導体市場は引き続き着実な拡大見込み  
高水準の受注残高を引き続き維持

【自動認識事業】 **増収増益**：全てのサブセグメントで増収増益

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率	増減額
売上高	27,676	26,314	▲4.9%	▲1,361
営業利益 (営業利益率)	4,337 (15.7%)	4,031 (15.3%)	▲7.0% (-)	▲305 (▲0.4pt)
経常利益	4,735	4,260	▲10.0%	▲475
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,371	2,288	▲3.5%	▲82

# 決算概要 (2024年3月期 第3四半期) (セグメント別)

# セグメント概要

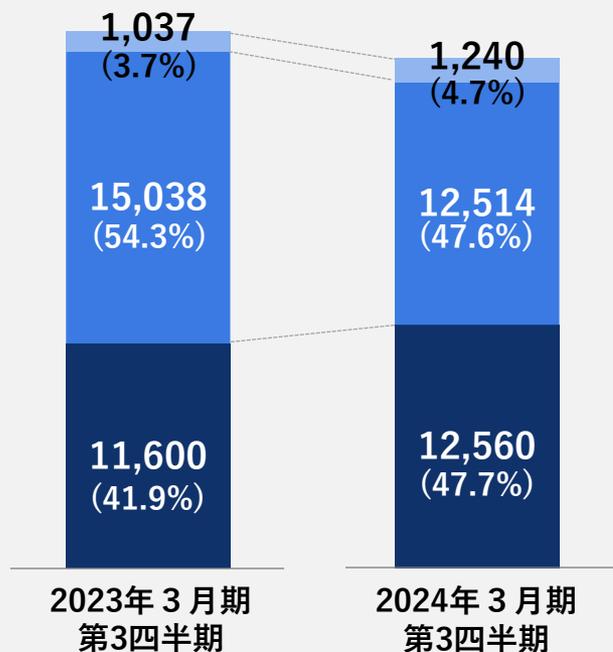
2024年3月期3Q

【売上高】 : 分析事業と半導体がほぼ同額で**95%**

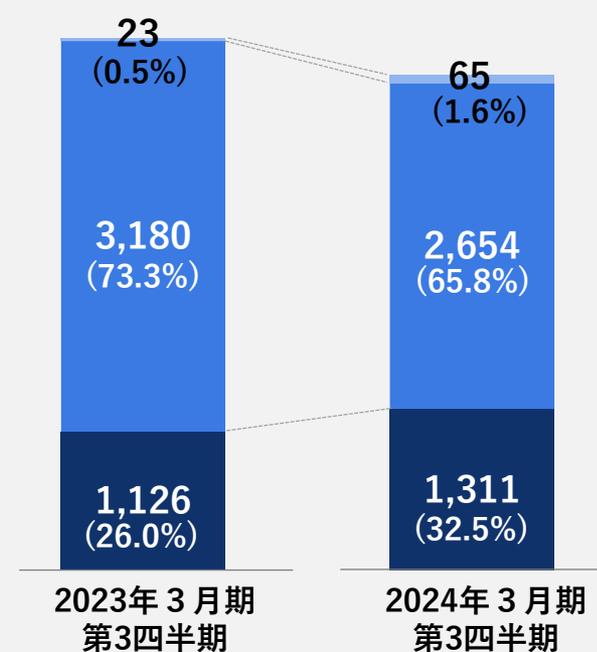
【営業利益】 : 半導体が**6割以上**、分析が**3割**

単位：百万円、%	売上高	売上高構成比	営業利益	営業利益構成比
分析機器事業	12,560	47.7%	1,311	32.5%
半導体事業	12,514	47.6%	2,654	65.8%
自動認識事業	1,240	4.7%	65	1.6%

## 売上高



## 営業利益



■ 分析機器事業 ■ 半導体事業 ■ 自動認識事業

# 決算概要 (セグメント別) 分析機器事業

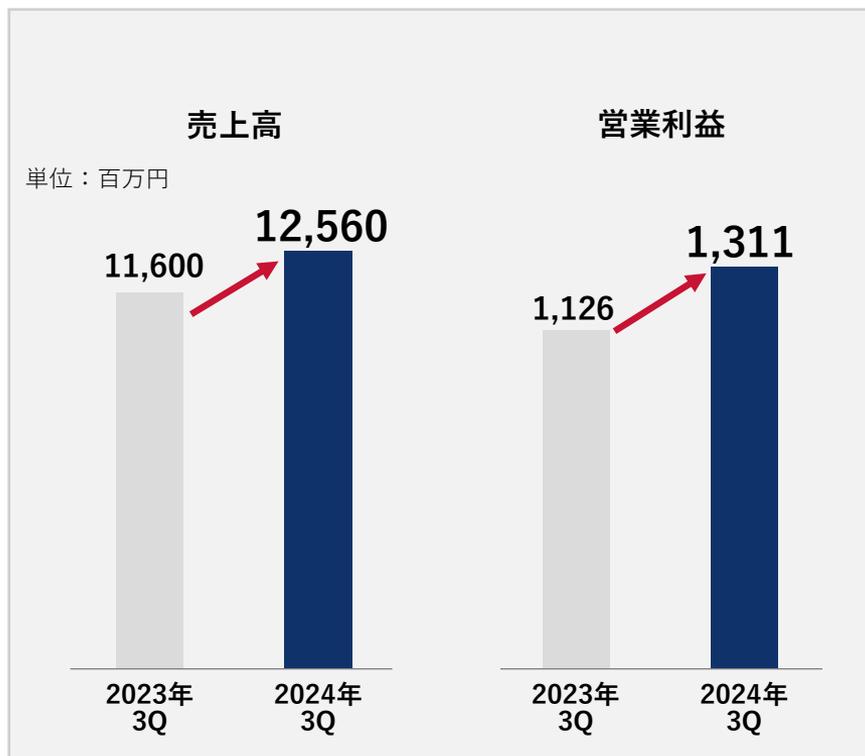


2024年3月期3Q

## 増収・増益

【増収】消耗品（多分野にて） + 【増収】装置 + 【好調】海外

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率	増減額
売上高	11,600	12,560	+8.3%	+960
営業利益	1,126	1,311	+16.4%	+185



### 要因・その他

#### <国内売上高>

##### 【多分野で増収】

- ・ 消耗品：食品、化学工業、環境分析、受託分析など  
- 特にLC用充填カラム、LC/GC用部品、標準試薬、アフターサービス関連が好調
- ・ 装置：製薬、環境分析、水質分析の各分野における質量分析計関連製品が好調
- ・ カーボンニュートラル関連をはじめとする化学工業など幅広い分野で好調なGC用特注システム製品売上も貢献
- ・ 利益率も前年同期並みの水準を維持

#### <海外売上高>

##### 【増収】

- ・ 製薬分野を中心に消耗品の需要は堅調な状況が続く  
- 消耗品の売上はアジア、欧州、中南米、アフリカの各地域で好調
- ・ OEM製品の売上も引き続き堅調に推移

# 分析機器事業（他社比較）

2024年3月期3Q

日本国内では**分析に関する技術的知識も有する営業部隊**が、顧客のニーズに合わせた**アプリケーション提案**からの**装置販売**と、導入後も必要になる**消耗品販売**を中心に展開

	売るもの	製品知識	販売後	利益率
一般的な装置メーカー	自社製品のみ	自社製装置に限り ◎	メンテナンスと更新の対応が中心	◎
一般的な販売店	契約しているメーカーの製品を幅広く	多様な製品を取り扱う反面、専門領域に関してはメーカーのサポートを要する場合もある	消耗品も随時案内  技術相談の対応可能範囲は限定的	△
ジェエルサイエンス	自社 + 他社製品	自社製品の知識を応用することで他社製品も◎	消耗品も随時案内  技術相談に対応するだけでなくアプリケーション（応用データ）も提案	○ 自社製品販売により、純粋な販売店よりも利益率は良い

# 分析機器事業（地域別）売上高推移

2024年3月期3Q

国内が7割強、海外が3割弱（主にアジア） いずれも堅調

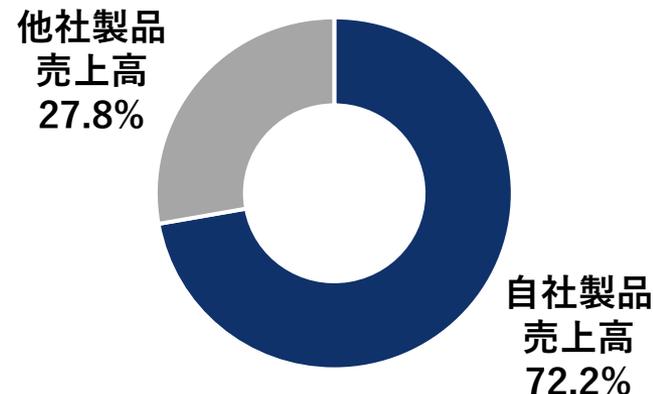
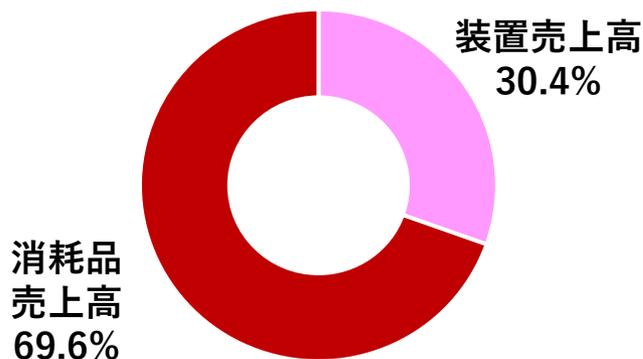
単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	前年同期比		2024年3月期 第3四半期 構成比(%)
			増減比(%)	増減額	
国内	8,694	9,446	+8.6%	+751	75.2%
海外	2,905	3,113	+7.2%	+208	24.8%
北米	321	418	+30.1%	+96	3.3%
アジア	1,909	1,993	+4.4%	+84	15.9%
その他	674	701	+4.0%	+26	5.6%
合計	11,600	12,560	+8.3%	+960	100.0%

# 分析機器事業 販売形態別比率

2024年3月期3Q

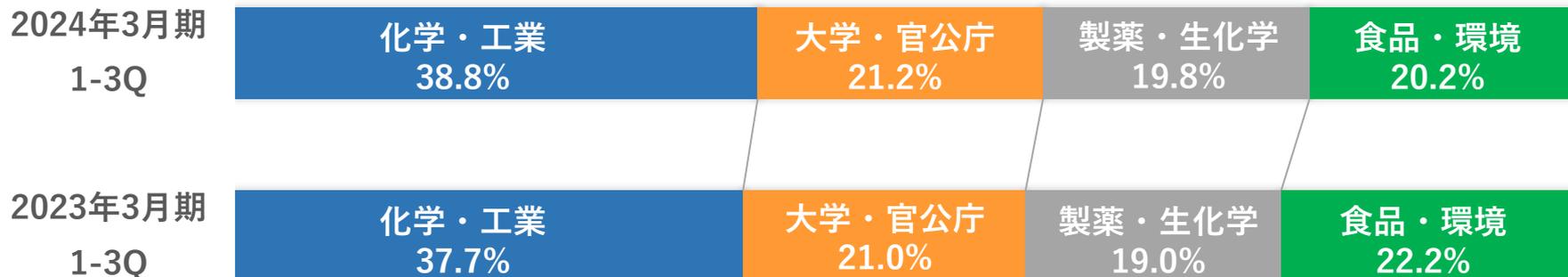
## 分析機器事業における売上高構成割合

消耗品と自社製品がそれぞれ7割前後を占める



## ジーエルサイエンス単体（国内売上高）における分野別売上高構成割合

化学・工業分野が主体



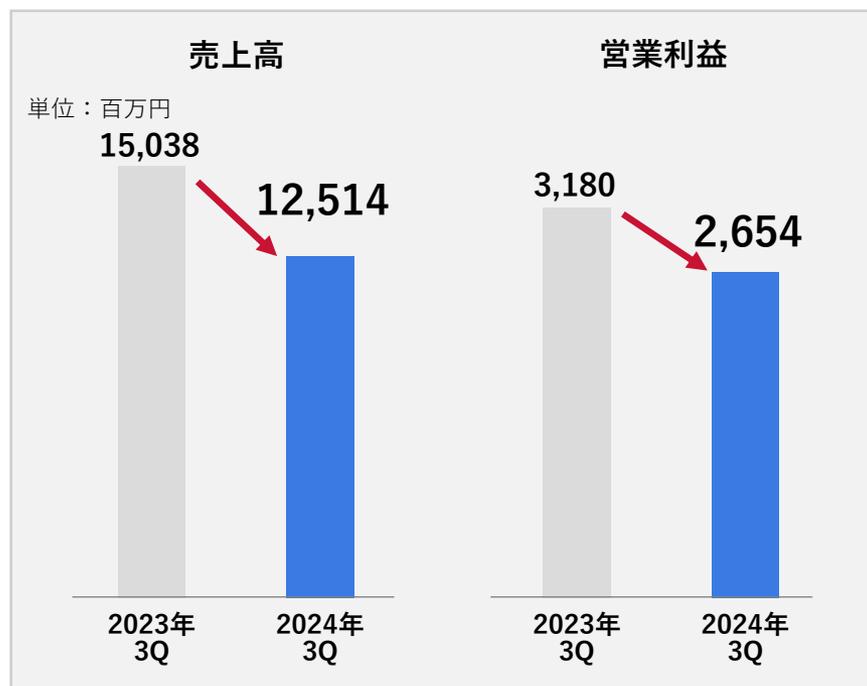
# 決算概要 (セグメント別) 半導体事業

2024年3月期3Q

## 減収・減益

PC・スマートフォン向け半導体は需要低下も、全体での受注残高は引き続き高水準を維持

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率	増減額
売上高	15,038	12,514	▲16.8%	▲2,524
営業利益	3,180	2,654	▲16.5%	▲525



### 要因・その他

#### 【- 需要低下】

- ・メモリーを中心に在庫が滞留

#### 【+ 市場動向】

- ・生成AI分野での需要拡大

→新規需要の掘り起こし、業務改善活動の推進  
→国内外問わず積極的な設備投資が相次いで計画・実行中

#### 【+ 受注残】

- ・高水準の受注残高を引き続き維持

# 半導体事業（地域別）売上高推移

2024年3月期3Q

国内・海外ほぼ同等割合

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	前年同期比		2024年3月期 第3四半期 構成比(%)
			増減比(%)	増減額	
国内	7,439	6,070	▲18.4%	▲1,369	48.5%
海外	7,598	6,443	▲15.2%	▲1,155	51.5%
北米	632	523	▲17.1%	▲108	4.2%
アジア	6,961	5,910	▲15.1%	▲1,051	47.2%
その他	5	9	+80.0%	+4	0.1%
合計	15,038	12,514	▲16.8%	▲2,524	100.0%

# 決算概要 (セグメント別) 自動認識事業

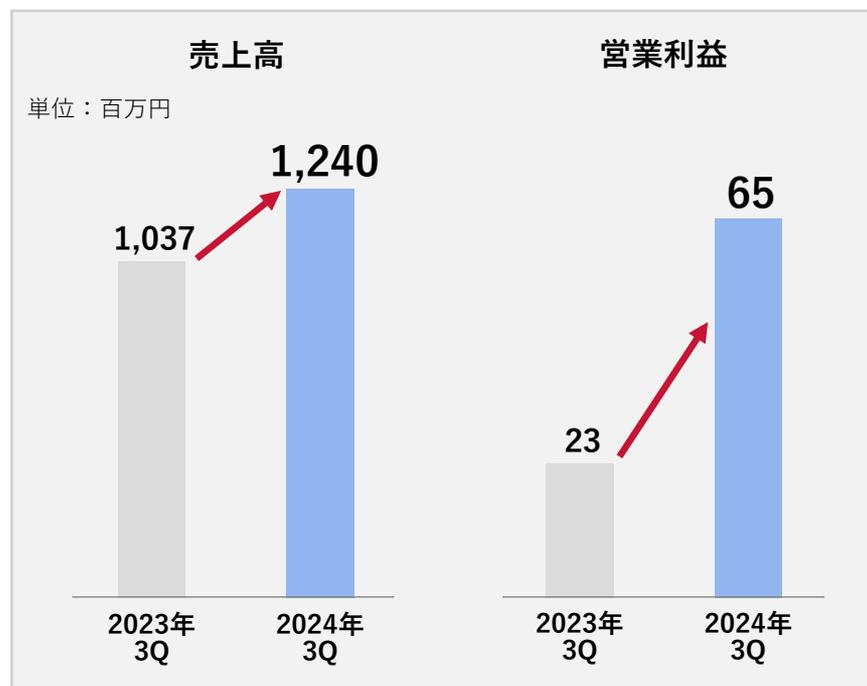


2024年3月期3Q

## 増収・増益

全てのサブセグメントにおいて増収増益

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率	増減額
売上高	1,037	1,240	+19.5%	+202
営業利益	23	65	+180.7%	+42



### 要因・その他

全てのサブセグメント（「機器組込製品」「完成系製品」「その他」）において増収増益

#### 【+復調傾向】

- ・各分野での顧客調達計画が復調しており、中長期的なフォーキャストも共有・合意

#### 【+堅調に推移】

- ・住居関連施設、入退室セキュリティ装置用の機器組込製品が引き続き堅調
- ・公共交通機関向け機器組込製品の拡販と多用途対応の機能追加協議を推進

#### 【+市場横展開】

- ・医療（バイタルチェック）向け製品が伸長しており、同業市場の大手メーカーでの採用検証・検討も順調

# 施策と進捗状況

2024年3月期3Q



各セグメントで業績改善に向けた取り組みを積極的に推進

## 施策

## 進捗状況（1-3Q）

	施策	進捗状況（1-3Q）
分析機器事業	・ LC充填カラムの販売強化	・ 引き続き海外での売上が牽引して好調。 ・ 新規表面処理技術であるInertMaskを応用した製品も正式に販売開始。
	・ 次世代エネルギー・カーボンニュートラル関連領域の事業拡大	・ 多くの装置案件を確保。通期ベースでは、前期を上回る売上となる見込み。
半導体事業	・ アメリカの対中国輸出規制への対応	・ 引き続き目立った動きはなし。今後の規制強化リスクに備えた中国国内の半導体製造装置メーカーへの営業活動については、少しずつ成果が出始めている。
自動認識事業	・ セキュアマイコン搭載機器の市場投入	・ 完成系製品のOEM製造、機器組込製品のOEM開発は順調に進行。類似市場からの引合い実現に向けた仕様の協議も活性化。
	・ パーキング市場向けソリューションの提供開始	・ 第2/第3四半期でトライアル装置および市場装置での各種検証を実施 第4四半期は量産仕様の最適化に向けた協議や量産試作を予定

# 業績・配当予想等 (2024年3月期)

# 業績・配当予想（2024年3月期）

(予想) 減収・減益、純利益は前年並み  
(全社)

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 (予想※)	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	38,679	36,540	▲5.5%	▲2,139
営業利益	6,034	5,780	▲4.2%	▲254
営業利益率	15.6%	15.8%	-	+0.2pt
経常利益	6,468	6,050	▲6.5%	▲418
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,499	3,500	+0.0%	+0
年間配当(円)	65	70	-	+5

※ 2023年10月31日発表の予想修正の通り

# 業績予想（2024年3月期）

【分析機器】 増収・増益

【自動認識】 大幅な増益率

【半導体】 減収・減益

（セグメント別）

単位：百万円		2023年3月期 実績	2024年3月期 (予想※)	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
分析機器事業	売上高	17,163	18,310	+6.7%	+1,146
	営業利益	1,888	2,220	+17.5%	+331
半導体事業	売上高	20,003	16,450	▲17.8%	▲3,553
	営業利益	4,068	3,470	▲14.7%	▲598
自動認識事業	売上高	1,513	1,780	+17.6%	+266
	営業利益	67	100	+47.5%	+32

※ 2023年10月31日発表の予想修正の通り

# 進捗率

2024年3月期3Q



## 3Qで70%前後を達成

4Qは、例年下半期の寄与が大きい分析機器事業を中心に売上確保のための活動を推進する。

単位：百万円		2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	2024年3月期 (予想※)	2024年3月期 (進捗率)
売上高	分析機器事業	11,600	12,560	18,310	68.6%
	半導体事業	15,038	12,514	16,450	76.1%
	自動認識事業	1,037	1,240	1,780	69.7%
	売上高合計	27,676	26,314	36,540	72.0%
営業利益		4,337	4,031	5,780	69.7%
経常利益		4,735	4,260	6,050	70.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益（当期純利益）		2,371	2,288	3,500	65.4%

※ 2023年10月31日発表の予想修正の通り

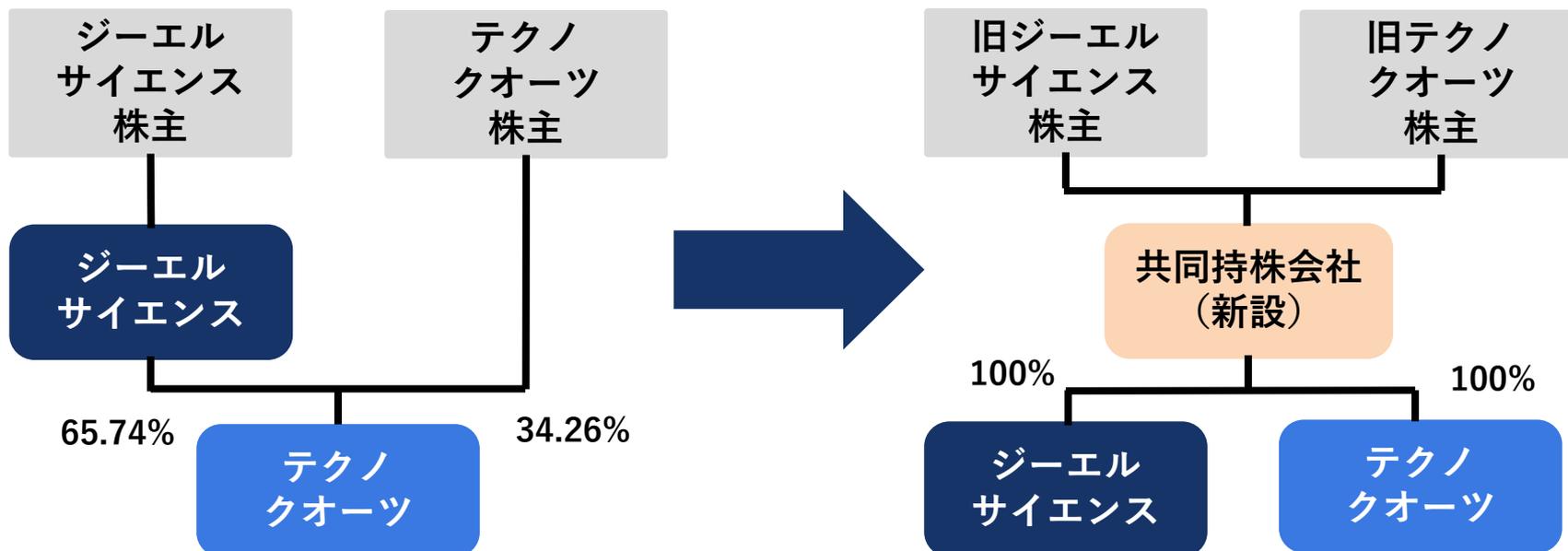
# 直近のトピックス

# 経営統合の概要

2024年3月期 3Q

ジーエルサイエンスとテクノクオーツは、共同株式移転により共同持株会社を設立し経営統合を行うことについて基本合意書を締結（2024年2月9日公表）

	ジーエルサイエンス	テクノクオーツ
株式移転比率	1	2.10



# 経営統合の背景と目的

2024年3月期 3Q

- 安定成長のジーエルサイエンス
- 景気循環の影響を受けやすい  
テクノクオーツ



グループ戦略機能の強化と  
最適な経営資源配分による  
成長機会の捕捉

- 人材やノウハウが両社に分散
- 急成長したテクノクオーツは  
オペレーションや管理に課題



管理機能の集約等による  
経営効率の向上

- 両社でのシナジー効果が限定的
- テクノクオーツ少数株主との  
利益相反の懸念



各利害関係者に対する  
提供価値の最大化と  
意思決定の迅速化

# 今後のスケジュール

2024年3月期 3Q

2024年6月下旬に開催される両社の定時株主総会で関連する議案が承認されることを条件として、下記予定にて実施

※詳細はプレスリリースをご参照ください（2024年2月9日公表）

URL [https://www.gls.co.jp/info/pressrelease\\_20240209.html](https://www.gls.co.jp/info/pressrelease_20240209.html)

2024年2月9日

経営統合に関する基本合意書締結

2024年5月中旬（予定）

統合契約書及び株式移転計画承認の取締役会決議

2024年6月21日（予定）

テクノクオーツの定時株主総会

2024年6月25日（予定）

ジーエルサイエンスの定時株主総会

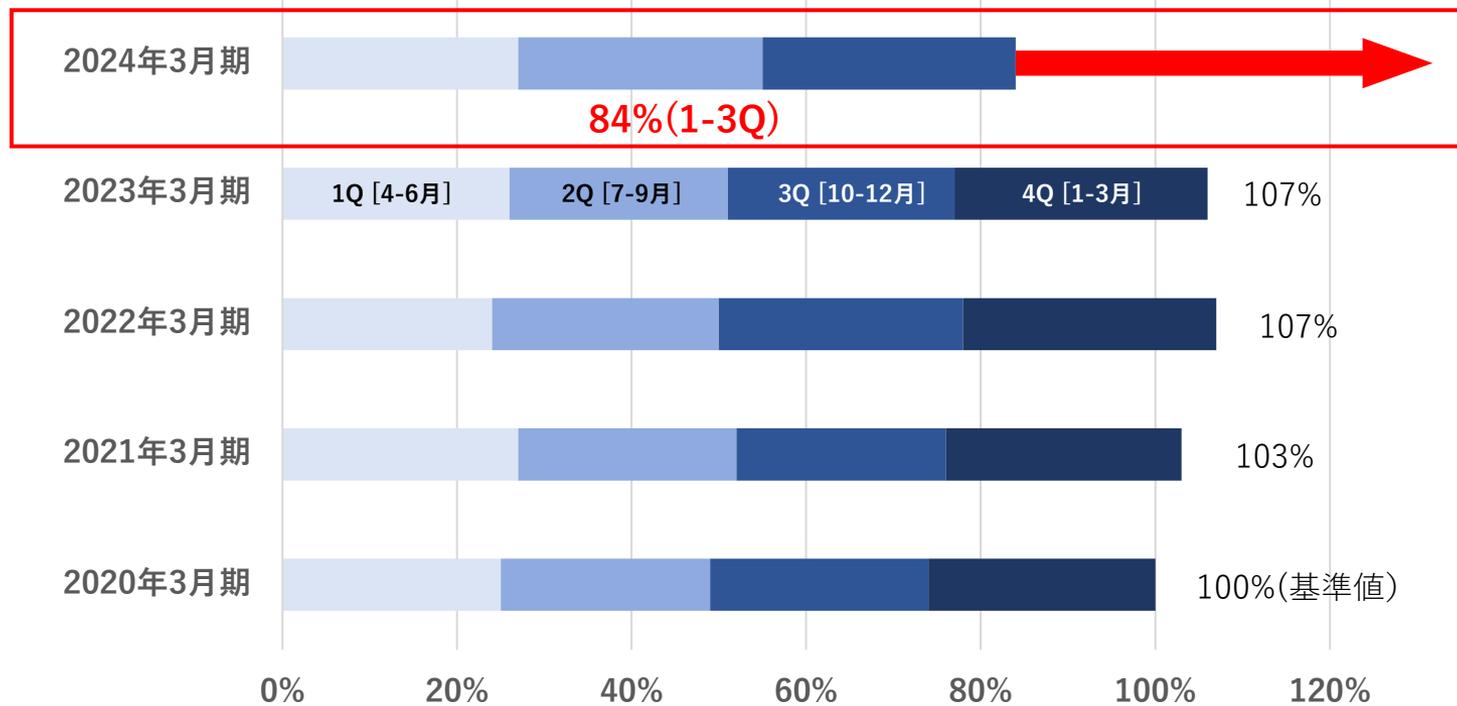
2024年10月1日（予定）

持株会社体制の開始（株式移転の効力発生日）

2024年3月期3Q

## 自社製消耗品「イナートファミリー※」販売好調

2020年3月期(コロナ前)におけるイナートファミリーの年平均の売上金額を100%として算出した場合、2024年3月期第3四半期は、**84%**の進捗。



注：ジエールサイエンス単体の数値（連結対象となる海外子会社としての売上金額は含まず）

※イナートファミリー：分析機器事業の**自社製消耗品**の中でも、利益貢献度が非常に高い主力の製品群  
中心製品は**自社LCカラム**、**固相抽出カートリッジ**、**GCカラム**の3種類

2024年3月期3Q

## 新しいメタルフリーカラム「IM Column」が新登場

この度、PEEKカラムに続く新しいメタルフリーカラムとして「IM Column」が新登場しました。当社独自の金属表面加工技術”Inert Mask”をステンレスカラム管に施した製品で、カラム管由来の金属配位性吸着を防止し、高感度かつ優れたピーク形状を実現します。また、PEEKカラムの場合、耐圧の点からガードカラムの製作が難しいですが、「IM Column」ではガードカラムもご用意が可能。新発売を記念し、**2024年3月末までの40%OFFのキャンペーンも実施中。**



2024年3月期3Q

## 受注残は引き続き2023年3月期に近い水準で推移

単位：百万円



## 免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

## 【当資料に関するお問い合わせ先】

ジーエルサイエンス株式会社

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>

## 支える、あらゆる分析を。

Separation Sciences for All

